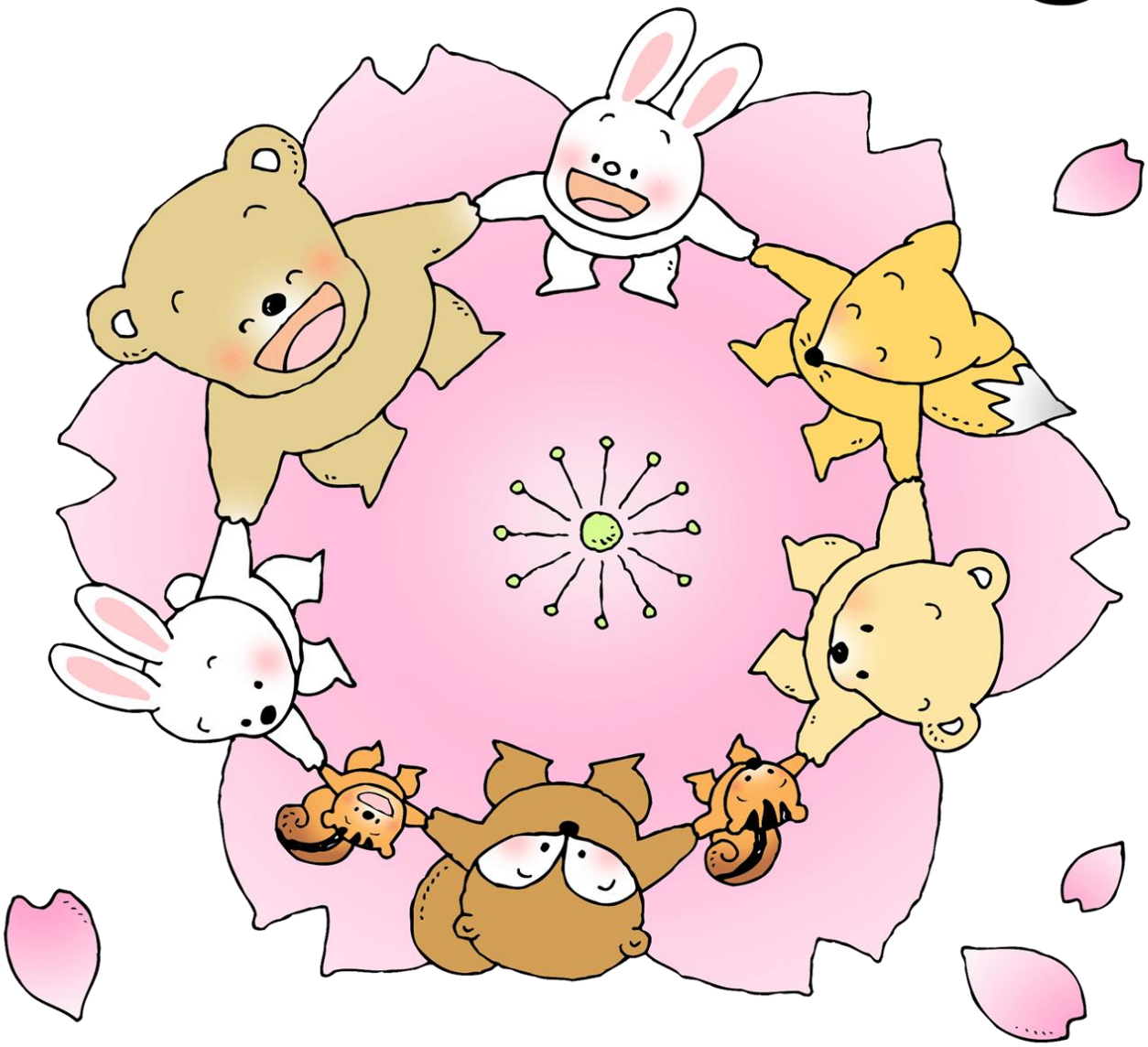
# 第１学年　学年懇談会



令和2年度 第1学年 学年懇談会

## １　学年目標と方針　　「わくわく」

集団生活の中で、できる喜びや楽しさを感じとらせ、友達が困っているときに助けてあげようとする思いやりの心、友達と協力しようとする態度を育てる。

**◎自分のことは自分でできる子**
**◎話をよく聞き、自分の思いを言葉にできる子**
**◎友達と楽しく過ごせる子**

◎「自分のことは自分でできる子」になるために

・身の回りの整理整頓がしっかりできるようにする。
（学習用具、ロッカーや机の中、くつ箱など）
・トイレや手洗い場などが正しく使えるようにする。
・給食の準備や後片付け、教室の清掃などがしっかりできるようにする。
・基本的なあいさつがしっかりできるようにする。
・日常の学習や生活の場面で、人に頼らず、自分の力でがんばる。

◎「話をよく聞き、自分の思いを言葉にできる子」になるために

・話している人の目を見て、しっかりと話を聞けるようにする。
・指名されたら、「はい。」と返事ができるようにする。
・「～です。」「～ます。」とていねいな言い方で話ができるようにする。
・適切な声の大きさで話をすることができるようにする。
・自分なりに感じたことや考えたことを、言葉で伝えることができるようにする。
・「ありがとう」や「ごめんなさい」を、気持ちを込めて伝えることができる。
・人が話しているときに、途中で話し出さないように気を付ける。

◎「友達と楽しく過ごせる子」になるために

・友達との遊びを通して、協力したり、わがままをおさえることを学んだりする。
・相手の気持ちを考えて行動する。
・様々な遊びや学習活動に興味をもち、積極的に参加する。
・大放課には、外に出て元気に遊ぶ。

## ２　１年生の学習内容について

### 国語

○　返事やあいさつをはっきりと言う。
○　先生や友達の話をしっかり聞く。
○　鉛筆を正しく持つ。
○　形や筆順に気を付けて、文字をていねいに書く。
　　＊ひらがな
　　＊カタカナ
　　＊漢字８０字
○　経験したことや身近なことを話したり、文に書いたりする。
○　簡単な文章を正しく読み取る。
○　教科書をはっきりした声で読む。…家庭での音読練習（音読カード）
○　「は」「へ」「を」を文の中で、正しく使う。
○　長音の「お」「う」、促音の「っ」、撥音の「ん」、拗音の「ゃ」「ゅ」「ょ」を正しく使う。

### 算数

○　数は物の個数を表していることや、数字で表されること、順序があることなどを理解する。
○　１０までの数の合成や分解をする。
○　繰り上がり、繰り下がりのないたし算・ひき算をする。
○　２０までの数のよみ方、書き方を理解する。
○　何時、何時半の時刻の読み方を理解する。
○　３つの数の計算をする。
○　繰り上がり、繰り下がりのあるたし算・ひき算
○　１００までの数を１０ずつまとめて数えたり、「１０がいくつと１がいくつ」という見方でとらえたりする。
○　１００までの数の計算をする。

### 生活

生活科は具体的な活動や体験を通して、学び、考え、自立への基礎を養うものです。

○　がっこう　だいすき（学校生活に慣れる）
○　がっこうたんけん（校内を探検する）
○　わたしの　あさがお（あさがおを育てる）
○　あそびに　いこうよ（自然や人々との関わる）
○　いきもの　だいすき（虫を探す）
○　ありがとうが　いっぱい（家の仕事を調べたり、挑戦したりする）
○　もうすぐ２年生（１年間の成長を振り返ったり、来年の１年生を迎える会の準備をしたりする）
○　プログラミング
○　けやきっこ　かつどう（縦割り活動）

**音楽**

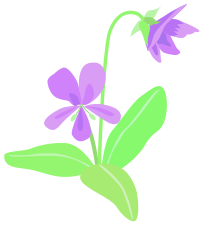
○　歌を楽しく歌う。
○　リズムに合わせて、身体表現をしたり、リズム遊びやふし遊びをしたりする。
○　鍵盤ハーモニカや打楽器に親しむ。
○　音楽を聴き、曲の美しさや演奏のよさを味わう。

**図工**

○　クレパスや絵の具（共同）を使って、自分の思いをのびのびと絵に描く。
○　いろいろな材料を使い、工夫しながら作品をつくる。
○　自分の作品をみんなに紹介したり、友達の作品のよいところを見つけたりする。

**体育**

○　なかよく楽しく運動する。
○　ねばり強く、最後までがんばって運動する。
○　運動の仕方やゲームの仕方を工夫する。
○　いろいろな運動をする中で、体力の向上を図る。
　（ボール遊び・鉄棒・マット・跳び箱・遊具遊び・鬼ごっこ・水遊び）



**外国語活動**

○　年に数回　：ＡＬＴ　ダーリーン・シマダ

## ３　ご家庭へのお願い

（１）毎日、必ず朝食をとらせてください。
（２）早寝・早起きに心がけ、睡眠は９時間～１０時間はとるようにさせてください。
　※夜型の生活にならないように、十分注意してください。
（３）基本的な生活習慣を、各家庭でもしつけてください。
　（歯磨き、手洗い、うがい、整理整とん、鉛筆やはしの正しい持ち方など）
（４）次の日の用意や着替えなど、自分のことは自分でできるように見守ってください。
（５）家族の一員として、子どもたちが責任をもって仕事に取り組めるように、小さなことでよいので役割を決めてください。
（６）短時間でよいので、集中して机に向かう習慣を身に付けられるように励ましてください。（２０分程度）
（７）たくさん本を読ませてください。
（８）連絡帳、学年だより「わくわく」、配付物には必ず目を通してください。
（９）連絡帳をご覧になりましたら、サインをお願いします。
（10）定期健康診断が終了した後で、学校から治療のお勧めの用紙が届いた人は、治療を受け、治療完了書を学校へ出してください。
（11）病気やけがなどで家庭連絡が必要な場合がありますので、緊急連絡先が変更になった場合は、必ず連絡してください。

## ４　今後の主な行事

**１学期**　６月２０日（土）東山ふれあいフェスタ・授業参観・引き渡し訓練
　→中止
７月　７日（火）～９日（木）個人懇談会
２０日（月）終業式

**２学期**　９月　１日（火）始業式
２６日（土）校内運動会（弁当持ち）
２８日（月）代休
２９日（火）運動会予備日（給食あり）
１１月２１日（土）東山まつり　→授業参観に変更
１１月２１日（土）授業参観
１２月　８日（火）～１０日（木）個人懇談会
２３日（水）終業式

**３学期**　１月　７日（木）始業式
２月　９日（火）学校公開日
３月　５日（金）６年生を送る会
３月２４日（水）修了式

※変更する場合がありますので、毎月の学年通信でご確認下さい。ご協力お願いします。

# １年生の心と体（データ集）

心身の発達、成長には個人差があります。下記の数値は、あくまでも参考としてご覧ください。

## ①身長・体重

（６歳の平均）

| | 女子 | 男子 |
|---|---|---|
| 身長 | １１５．６ｃｍ | １１６．５ｃｍ |
| 体重 | ２０．９ｋｇ | ２１．４ｋｇ |

（文部科学省「平成３０年度学校保健統計調査」より）

## ②家庭学習

「(学年＋１）×１０分」が家庭学習に適した時間と言わることが多いです。１年生では、毎日２０分程度の学習習慣が身に付くとよいでしょう。

## ③体力・運動能力

スポーツ庁「体力・運動能力調査」によれば、幼児期によく外遊びをしていた子どもは、日常的に運動する習慣がつき、体力テストの合計点も高いという結果が出ています。小学校入学後もしっかり運動習慣を身に付けるように心がけましょう。

（６歳の平均）

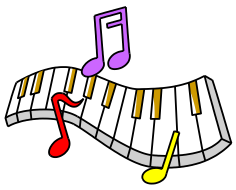
| | 女子 | 男子 |
|---|---|---|
| ５０ｍ走 | １１．７２秒 | １１．４０秒 |
| 立ち幅跳び | １０９．０７ｃｍ | １１５．３７ｃｍ |
| ソフトボール投げ | ５．８１ｍ | ８．４７ｍ |

（スポーツ庁「平成３０年度体力・運動能力調査」より）

## ④習い事

小学館「小学１年生」２０１９年３月号でのアンケート結果を紹介します。

１位：水泳
２位：ピアノ・音楽
３位：英会話
４位：体操
５位：学習塾
６位：書道
７位：サッカー
８位：そろばん
９位：絵画
１０位：プログラミング・ロボット工作



参考引用資料・・・教育技術小一小二　２０２０　４、５月号

# 低学年の特性と伸ばし方

あくまでも一般的な特性や伸ばし方としてお読みください。

## １．緊張と不安感でいっぱい

保育園や幼稚園の生活と違って、低学年では学習という時間が加わります。環境ががらりと変わり、子どもたちは緊張や不安感でいっぱいです。そんなとき、接する大人がピリピリしないようにしたいものです。醸し出すピリピリした空気は、話し方や表情から敏感に子どもに伝わり、不安感を大きくしてしまうこともあります。

担任も保護者の方々も、できるだけ具体的に、シンプルで、分かりやすい言葉で話しかけることを心がけていくことが大切です。和やかな雰囲気は、子どもたちを安心させます。

## ２．感情のコントロールが未熟

低学年は、保育園・幼稚園児と比べて、自分の感情（怒り、恐れ、喜び、驚き、悲しみ、嫌悪など）を理解し、ある程度、自分でコントロールできるようになっていきます。騒いではいけない場面では静かにしようとしたり、悲しいときに泣きじゃくらずに言葉である程度伝えられるようになってきたりします。しかし一方で、感情が多様で複雑になってくるため、それに適した表現方法が見つけられなかったり、集団生活で上手に感情コントロールができなかったりする場面も見られます。

かつては、人生に必要なソーシャルスキル（他人と上手に関わるための技術やコツ）を、子どもたちは遊びを通して学んでいました。しかし現代では、少子化や子どもの生活スタイルの変化により、自由に遊ぶ絶対量が減り、「友達を思いやる」「がまんする」「へこんでも立ち上がる」といった、スキルを学ぶ機会が減ってきています。

学校では、日常的にソーシャルスキルを安心して伸ばすことのできる場所になるように努めます。子どもたちに、望ましい考え方や行動のしかたを具体的に教えていきます。

## ３．気持ちがうまく伝えられない

相手の表情や話し方から、怒っているとか悲しんでいるとかを、正確に想像するのは難しい年齢でもあります。言葉に出して相手に伝えることの大切さを、繰り返し子どもたちに伝えていくとよいでしょう。「相手がどんな気持ちか」を理解し、「自分はどんな気持ちか」を伝えられるように心がけることです。

たとえば、子どもが泣いているといつも「悲しい」と決めつけず、子どもにしっくりくる言葉を一緒に考えたいものです。その裏には、不安な気持ちや悔しい気持ち、苦しい気持ちが入り交じっているかもしれません。悲しい気持ちの裏側をできるだけくみ取り、気持ちにはいろいろあることに気付かせていきましょう。すると次第に、自分の心の状態にぴたっとくる感情を表すことができるようになっていきます。

読書や読み聞かせを通して、子ども自身が表現や語彙を自主的に鍛える機会を増やすことも大切です。

参考引用資料・・・教育技術小一小二　２０２０　４、５月号